

冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）に係る当初案からの変更について

1 意見募集の概要

(1) これまでの招致PRの取組みについて

実施内容	回(件)数、対象者数	具体例
出前講座等	101回、4,413名	町内会、スポーツ団体、大学ほか
イベント出展	21件、約7,000名	大倉山サマージャンプ大会、区民祭ほか

(2) 寄せられた意見数

分類	件数(件)	具体的内容
市民意見	62	E-mail、手紙、FAXほか
出前講座	137	町内会、その他の団体、市立大学
会議	92	有識者、競技団体、アスリート部会
シンポジウム	124	9月15日開催
イベント	80	各種PRイベントほか
合計	495	

(3) 競技団体連絡会議及びアスリート部会からの主な意見

- ① 「札幌」の計画から「北海道・札幌」の計画へ
 - ・ アスリートが合宿地に訪れ、交流することでジュニア世代の育成につなげてほしい。
- ② アスリートファーストの視点からの取組を充実
 - ・ 競技施設整備等について、アスリートの意見を取り入れるべき。
 - ・ 競技会場内にコンディショニングできる場所を設置する等、競技環境を整備してほしい。
 - ・ 選手村に家族や子ども達と交流できるミックスゾーンを設置してほしい。
- ③ 選手育成の取組を強化
 - ・ 夏場でも練習可能な施設を建設し、合宿招致を目指してほしい。
 - ・ 選手強化のためにナショナルトレーニングセンターを誘致してほしい。
- ④ 障がい者スポーツ普及に関する取組を強化
 - ・ 実際のパラリンピック競技を観戦、体験してもらう機会を増やすべき。
- ⑤ オリパラムーブメントの促進と世界に向けた文化発信
 - ・ 学校のオリパラ教室にアスリートが参加し、オリパラ教育を広めるべき。

2 修正案のポイント

議会、各種会議、市民等からの意見や北海道との協議を踏まえ、21項目を修正。主なポイントは以下のとおり。

① 「札幌」の計画から「北海道・札幌」の計画へ

- ・ 大会名称を「2026年北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会」へ変更
- ・ どさんこアスリートの育成に関する項目を追加
- ・ 北海道の魅力を世界に発信する項目を追加

② アスリートファーストの視点からの取組を充実

- ・ 施設整備のコンセプトに整備計画段階から、競技者の視点を取り入れることを明記
- ・ 選手村のホスピタリティ向上として、ミックスゾーンの設置等を追記

③ 選手育成の取組を強化

- ・ 冬季版総合NTCの誘致等、冬季競技のトレーニング環境を充実させることを明記
- ・ 選手育成や札幌市の支援策に具体的支援策を明記

④ 障がい者スポーツ普及に関する取組を強化

- ・ 障がい者スポーツの裾野拡大、指導者育成について追加
- ・ 選手と子どもたちの交流や障がい者スポーツ大会へのボランティア参加の促進について追加
- ・ 障がい者スポーツを気軽に体験できる機会の創出について追加

⑤ オリパラムーブメントの促進と世界に向けた文化発信

- ・ アスリートの協力を受け、学校におけるオリパラ教育の充実を明記
- ・ メダル授与式と雪まつりを連携させる等、札幌の文化を世界に発信

⑥ 開催経費の更なる縮減

- ・ 民間資本活用に向け、民間が参入しやすい計画づくりとすることを明記
- ・ 国内に数力所しかない施設については、国立での整備を国と協議していくことを明記
- ・ 市民、道民の不安や疑念を抱かないよう継続的に財政情報を開示することを明記

意見		変更前	変更後	
項目	内容			
大	小			
大会 コンセプト		P10 施設整備のコンセプト 「ユニバーサル」 すべての人にやさしい施設整備を進めます。	すべての人にやさしい施設整備を進めます。施設建設にあたっては、整備計画段階から、競技者の視点を取り入れながら進めていきます。	
	競技会場	競技会場内にコンディショニングできる場所の設置等、競技環境を整備してほしい。 また、大会前は競技会場を早く整備し、本番と同じ環境で練習できるようにしてほしい。 後付でバリアフリー整備するのではなく、初めからパラリンピックに対応した施設を整備してほしい(ソリ会場やスキー場のゴンドラ、アイスホッケー会場のベンチやロッカールーム等)		
競技編	パラリンピック	P4 大会コンセプト 視点1：大会運営 3.パラリンピックのさらなる発展を ○オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会への実現へつなげていきます。 ○障がい者スポーツの大会を積極的に開催し、 <u>パラリンピック、パラリンピアン</u> のプレゼンスを向上させるとともに、 <u>障がい者スポーツの普及・発展に寄与することで、バリアフリー社会を構築していきます。</u> ○パラリンピックの大会を契機に、 <u>競技会場や会場へのアクセスにおけるユニバーサル化を進めます。</u> ○パラリンピックを契機に、 <u>パラリンピック教育を推進するなど、ノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。</u>	○オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現へつなげていきます。 ○障がい者スポーツの大会を積極的に開催し、 <u>障がい者スポーツの普及・発展に寄与するとともに、パラリンピック、パラリンピアン</u> の認知度を向上させることで、 <u>インクルーシブな社会の構築を目指していきます。</u> ○パラリンピックを契機に、 <u>会場や交通機関におけるアクセシビリティ※の向上を進めます。</u> ※アクセシビリティとは、障がいの有無に関わらず、また幅広い年齢の人々が、 <u>社会的インフラ、施設、設備、製品、サービスにスムーズにアクセスし利用可能なこと</u> ○パラリンピック教育を推進することで、 <u>ノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。</u>	
		「バリアフリー」は、東京オリパラで主に使用されている「アクセシビリティ」という表現を使用した方がよい。	P10 施設整備のコンセプト 「ユニバーサル」 ・競技会場はスロープやエレベーターの設置等、誰もが移動しやすい施設とします。 ・会場へのアクセスとなる交通機関や駅などは <u>バリアフリー化を進めます。</u>	・競技会場は <u>国際パラリンピック委員会 (IPC) の基準を踏まえたスロープやエレベーターの設置等、誰もが移動しやすい施設とします。</u> ・会場へのアクセスとなる交通機関や駅などは <u>アクセシビリティの向上を図ります。</u>
			P52 パラリンピック競技 ■大会コンセプト パラリンピックを契機に新たな時代に対応した、すべての人にやさしい豊かな暮らしを創出します。 <u>競技会場や会場へのアクセスにおけるユニバーサル化を進めるとともに、パラリンピック教育を推進するなど、ノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。</u> ■バリアフリー化 <u>計画段階からの国際基準に合ったバリアフリー化を検討し、体育館等のバリアフリー化を推進するとともに、小・中学校のバリアフリー教育もさらに拡充します。</u> <u>市民、道民による、パラリンピック競技の体験を通じて、パラリンピックへの理解、選手を応援する気持ちの醸成を図ります。</u>	パラリンピックを契機に新たな時代に対応した、すべての人にやさしい豊かな暮らしを創出します。 <u>会場や交通機関におけるアクセシビリティの向上を進めるとともに、パラリンピック教育を推進することでノーマライゼーションの理念を広め、心のバリアフリー化を進めます。</u> <u>計画段階からの国際パラリンピック委員会 (IPC) の基準を踏まえたアクセシブルな会場整備を行うとともに、体育館等のバリアフリー化を推進します。</u> <u>また、小・中学校等におけるインクルーシブ教育システムの構築や、パラリンピック競技の体験を通じて、市民、道民におけるパラリンピックへの理解、選手を応援する気持ちの醸成を図ります。</u>

意見		変 更 前	変 更 後
項目	内 容		
大	小		
競 技 編	パラリンピックのクロスカントリーとバイアスロンは選手の重複が多いため、同会場で行うべきである。	P15、51 競技会場一覧 ■パラリンピック (表下に追加)	※バイアスロンとクロスカントリーについては同会場での開催を検討
	選手村	P55 オリンピック・パラリンピック選手村 ■ホスピタリティ また、車いすなどに配慮した段差の解消、視覚障がい者誘導用床材、音声誘導装置など障がい者を念頭に置いた施設整備も行います。	また、車いすなどに配慮した段差の解消、視覚障がい者誘導用床材、音声誘導装置など障がい者を念頭に置いた施設整備も行います。 なお、大会期間中にアスリートが家族と面会したり、市民との交流が可能となるミックスゾーンの設置等、選手がリラックスできる環境を整えます。
盛り 上げ 編	小中学校でのオリパラ教室にアスリートが参加し、オリパラ教育を広めるべきである。	P79 オリンピック・パラリンピックムーブメント推進事業 ■多様性を学ぶ機会の創出、多様性を尊重することのはぐくみ また、外国の子どもたちとのスポーツ交流を通じて、スポーツが世界共通言語であり、世界平和に貢献できることの理解を促進します。	また、アスリートの協力を得ながら、子どもたちがスポーツを始めるきっかけを作っていきます。 さらに、外国の子どもたちとのスポーツ交流を通じて、スポーツが世界共通言語であり、世界平和に貢献できることの理解を促進します。
	選手強化	P77 選手強化のための協力 各競技団体と連携した全面的な支援 (新規追加)	■NTCの誘致と選手育成 冬季版総合ナショナルトレーニングセンター（NTC）の誘致等、冬季競技のトレーニング環境を充実させ、選手強化を全面的に支援します。 また、野球やサッカー等、夏季競技とも一体化した選手育成を支援します。 さらに、障がいのある子どもがスポーツを楽しめる環境を作り、障がい者スポーツの裾野を広げていきます。
レガ シー 編	ウインタースポーツ都市	夏場でも練習可能な施設を建設し、日本国内の選手はもちろんアジアの選手の合宿招致を目指してほしい。	
		P82 オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか (新規追加)	P83 世界に誇るウィンタースポーツ王国「北海道」へ ■どさんこアスリート育成 大会の成功に不可欠であるメダリストを北海道から生み出すため、アスリートを育成します。 ○スケルトン、バイアスロン、カーリング等の冬季競技を中心に小中学生からタレントアスリートの発掘 ○夏季競技も含めた交流による選手発掘 また、冬季競技の盛んな道内市町村と札幌市が連携し、幼少期（市町村）から青年期（札幌市）までの一貫した育成システムを整えることにより、冬季スポーツの振興を図っていきます。 さらに、JOCが実施するアスナビ事業等とも連携しながら、選手への支援の多様化を進めていきます。
	ウインタースポーツ文化	P81 オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか ■ウィンタースポーツ人口の拡大 ○ウインタースポーツの体験機会を提供	○アスリートとの交流を含めたウインタースポーツの体験機会を提供 ○競技人口の増加につながるアスリート等による裾野拡大の取組み ○「観るスポーツ」の進化により、市民のウインタースポーツへの関わり方を変える取組み ○学校や地域でのウインタースポーツ教育の充実による裾野拡大 ○用具レンタルやリユースによる裾野拡大
		■「パラリンピック」の更なる理解へ パラリンピックの開催を契機に、パラリンピック教育を推進するなど、ノーマライゼーションの理念を広めていきます。 また、障がいの有無を問わないインクルーシブな大会を開催していきます。 さらに、オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現につなげていきます。	P82 パラリンピックの開催を契機に、ノーマライゼーションの理念を広めていきます。 また、障がいの有無を問わないインクルーシブな大会を開催していきます。 さらに、オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現につなげていきます。 ○パラリンピック教育の推進 ○障がい者スポーツの裾野の拡大、指導者育成 ○選手と子どもたちの交流や障がい者スポーツ大会へのボランティア参加の促進 ○障がい者スポーツを気軽に体験できる機会の創出 ○大会の積極的誘致